

# 星穴岳 2015/11/03

★星穴新道～星穴岳～結び穴～射抜き穴～中ノ嶽神社縦走★

メンバー：落合（CL・記録），小林，平川

道の駅みょうぎ（車デポ）⇒国民宿舎・裏妙義 7：25 星穴岳 12：40 結び穴 14：40

中ノ嶽神社 15：30～道の駅みょうぎ（タクシー利用 ¥ 3,400・車回収）⇒国民宿舎・裏妙義

11月といえばマンスリー・西上州の季節である。昨年も錦秋の頃に中ノ嶽神社から星穴巡りに行ってみたが、今年は北側の星穴新道からその伝説を追ってみた。

星穴新道は星穴岳に直接突き上げる唯一の登路であるが、廃道になって40年以上経っている。

今となっては失われつつある道も、藪と岩の中のかすかな踏み後を辿りながら登るのはこの山域の魅力のひとつだ、今回はその星穴新道（裏妙義側）から結び穴・射抜き穴を巡り、中ノ嶽神社（表妙義側）へ縦走する計画とした。

当初は5名での計画だったが、直前で諸事情により3名での山行となった。

しかしトーク担当の二人（小林・平川）がいるので賑やかである、意外にもこの3人で組む登山は初めてなので少し新鮮な感じ。

装備は落合・渓流シューズ（ビブラム）にネオプレン・スパッツ、小林・アプローチ・シューズで軽快に、平川・ゴローのブーツで先人のような出で立ちで全く統一感の無い3人だが、国民宿舎で登山指導をしていた警察にいきなり止められる。怪しい装備の3人なので仕方ない。。

事故が多いので気をつけてと言われ登山届を提出して出発。

詳細な記述をしてしまうと現場で判断するバリエーション・ルートの醍醐味に欠けるので割愛するが、残置物（鎖や終了点・立木等）は当然ながら信用出来ないものが多いので十分注意したい。

数十年放置されたものとはいえ鎖を使わないと越えられない岩場もあり、切れ落ち具合は妙義山塊の中でも随一と呼べる、昔の人はよくこんなところを整備したものだ。。

核心はP3と星穴岳山頂直下のトラバースだろうか、後者はバランスの悪い登攀になるがクラックに片手だけハンド・ジャムを決めながら二手くらいが難しいが、ゴボウで登れなければ体感でV級くらい？



星穴新道、振り返るとP3が圧巻だ（左）

山頂直下のトラバース、タドン状の岩にハンド・ジャムはある意味貴重！？（右）

ゴローの平川君はスラブ系の岩場では上手く立ち込めず終始苦勞していたが、ゴローでクライミングする事はゴロリングと言うらしい。。ゴロー使いになるにはもう少し精進が必要だろう。

後半は結び穴・射抜き穴を巡り中ノ嶽神社へ縦走するが、落合と小林さんは2回目なのでここからは初見の平川君にリードで懸垂してもらう。（空中懸垂では例のごとく宙釣りの刑を受けた）

星穴から中ノ嶽神社まで下るルートは昨年までは見当たらなかったが、至る所にトラロープが設置されていて踏み後もベタ打ち、バリエーション・ルートの雰囲気は全く失われていて興奮めしたのが少し残念だった。

星穴新道から登る場合、星穴沢や鷹戻し経路で女坂を下山するのが一般的だと思うが、周回ルートを取った場合は星穴探訪（結び穴と射抜き穴）出来ないの、中ノ嶽神社へ縦走した方が断然面白く、星穴の伝説を紐解けたような気分になれるのでオススメだ。

低山で認知度も低く藪や岩も脆く一般的とは言い難い西上州であるが、そこにこそ登山の本質が隠されており、この山域への魅力や可能性は尽きない。